

題材の目標

- (1) 形が感情にもたらす効果や、性質、立体感、量感や動勢などの造形的な特徴、置かれている空間などを基に、作品全体のイメージや主題を捉えることができる。
- (2) 表したいイメージを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調、形や質感、重心などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることができる。造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。
- (3) 創造活動の喜びを味わい、主体的に感情やイメージなどを形で表そうと単純化や省略、強調、形や質感、重心などを考え構想を練ったり、意図に応じて自分の表現方法を追究して創造的に表したりして、表現の学習活動に取り組もうとする

標準的な展開例

【準備等】木材、石材、加工粘土、紙やすり、木工やすり、参考資料、ワークシート、タブレット端末、筆記用具、絵の具、彫刻刀、身近材料

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 作品について話し合う。</p> <p>★作品やタイトルから感じ取ったことを発表しよう。</p> <p>○作品とタイトルから、受けるイメージについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「空間の鳥」ブランクーシ ・「風」安田侃 <p>○作者が表現したかったことは何か、話し合う。</p> <p>2 イメージを基に主題を決める。</p> <p>★イメージを大切に、主題を考えよう。</p> <p>○複数の視点から物を深く見つめたり、ものの本質について想像させたりして主題を生み出す。</p> <p>○何を強調し、何を省略して表すかを取捨選択し、内面や本質を捉え直しながら構想を練る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的な要素の特徴やタイトルなどから、全体のイメージや作風を捉えさせる。 ・2次元コードを読み取り、彫刻作品の造形的な特徴に着目させる。 ・造形的な特徴などから何かに見立てたり、心情などと関連付けたりしながら話し合い、イメージで捉えることを理解させる。 <p>【評】美術の創造活動の喜びを味わうこと、主体的に形や質感、重心などを考え構想を練ること、意図に応じて自分の表現方法を追究すること、創造的に表し見通しをもって表現することといった学習活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じ取ったイメージや自己を見つめて生じた感情などを言葉にして書きとどめ、それを基に主題を考えさせる。 ・表現の組立てを工夫するために、部分や全体に着目して構成の仕方を試行錯誤させる。 <p>【評】形や立体感、量感や動勢、置かれている空間などを基に、全体のイメージや主題を捉える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

<p>3～6 主題を基に制作する。</p> <p>★イメージに合った材料を選び、制作しよう。</p> <p>○加工しやすさや感情にもたらす効果を考えて材料や用具を選択する。</p> <p>○主体的に材料や用具を関連付けたり総合的に扱ったりするなどして材料や用具の特性を生かしながら創造的に表す。</p> <p>7 鑑賞会を行う。</p> <p>★鑑賞会を行い、作品について深く捉えてみよう。</p> <p>○作品の構成や表現方法などを探り、そのよさを深く感じ取る。</p> <p>○主題から表現の意図と創造的な工夫などについて考え、次回の制作につなげる。</p>	<p>・イメージの表現の可能性を考えて材料や方法を選ぶよう言葉かけをし、制作させる。</p> <p>【評】表したいイメージなどを基に主題を生み出し、形や質感、重心などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・創造的に表すことができるように、新しいことに挑戦させる。</p> <p>【評】材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追究して創造的に表し、制作の順序などを総合的に考え、見通しをもって表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・多様な見方や感じ方ができるようにして鑑賞を深めさせる。</p> <p>【評】美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・表現の学習と関連させながら発想や構想をする学習に結び付けるなどして見方や感じ方を深めさせる。</p> <p>【評】造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>
---	---

【 備 考 】

本題材は、自分が表したいイメージを追究するために、様々な工夫をして豊かに表現する。造形的な視点を豊かにもち、対象や事象などからイメージを捉えることができるようにするために、最初の直感的なイメージも大切にしながら見立てたり、心情などと関連付けたりして、全体のイメージで捉えることについて実感を伴いながら、理解できるようにする。さらに見方を変えるなどして、新たな視点に気付いたり深められたりする。自分が感じたイメージを他者と伝え合ったり根拠について話し合ったりするなどの活動が大切である。